

## 平成19年度決算の概要

まず始めに、19年度予算に基づき執行いたしました主な事業につきましては、次のとおりです。

### 1.教育、研究及び診療環境の整備

(1)〔教育関係〕①御井学舎学生寮（第4棟）新築、御井学舎保育士養成コース新設のための教室の改造・備品類の整備及び御井学舎学務システムの更新で、学生の学習意欲向上等を図ることとしました。②看護学科B棟コンピュータ実習室の改修により、パソコン台数の増設を行い授業の改善とともに学生の教育上有効に活用されています。③平成17年度から進めてきた、男女共学化に伴う附設高中校2号館トイレの改修を行い教育環境の整備等に取り組みました。

(2)〔研究関係〕①利用者サービスに重点を置き、機器の更新・ソフトのバージョンアップと新機能を追加導入した図書館システムの更新を行いました。

(3)〔診療関係〕①大学病院・医療センターでは、外来の調剤待ち時間対策、医療経費の削減、薬剤在庫の縮減、薬剤部業務シフト（安全対策）のためのマンパワーの確保を目的に院外処方（医業分業）を平成19年4月より導入しました。②大学病院・医療センターでは、病院経営分析・原価計算システムを導入し、診療科・部門毎の診療実績に基づき診療報酬請求等の収入に対する支出を診療科・部門単位で計算し、診療の財務上の影響を分析するためのシステム開発に取り組みました。

(4)〔施設・設備関係〕①動物実験センターの非常用電源を非常用電源母線からの供給がスムーズに行えるよう受変電設備の改修を実施しました。②天然ガス型エネルギー面的利用導入モデル事業の補助金を活用したコージェネ発電機の設置工事を行いました。これにより、災害等で電力の供給が全面停止した場合でも自家発電機運転により、教育・研究・診療に必要な電力確保が可能となりました。

### 2.創立八十周年記念事業

①医療センター病棟・外来棟建築（平成15年度からの継続）については、平成19年3月に外来棟が竣工、同年5月に開院し、残工事として駐車場整備・道路拡幅工事が残っていましたが、同年11月に竣工し、12月5日に落成式が行われました。②大学病院新病棟は平成19年11月2日に地鎮祭が行われ、平成22年8月までに新病棟（一期、二期）の工事完成を目指し建築が始まりました。③御井学舎講義・研究棟については、建築基準法改正等により建築の着工が遅れ、完成予定は平成20年度末を予定しています。

次に、平成19年度消費収支の状況、資金収支の状況及び貸借対照表の状況について概要をご報告いたします。

#### <消費収支の状況>

まず、収入の部については、補正予算比で寄付金が二億八百万円の減、一方、事業収入が一億四百万円、医療収入が三千百万円、雑収入が二億四千八百万円、それぞれ増となり、帰属収入合計は、四百七十七億二千四百万円となりました。

また、18年度決算との比較では、資産運用収入、雑収入等に増があったものの、学生生徒納付金、補助金、事業収入、医療収入等が減となりました。帰属収入合計額から十八億一千五百万円の基本金組入を行い、消費収入の部合計は、四百五十九億九百万円となりました。

次に支出の部については、補正予算比で人件費が退職給与引当金繰入増に伴って一億一千五百万円の支出増、医療経費を除く教育研究経費が四億一千七百万円の減となり、消費支出の部合計は、四百六十六億三千四百万円となりました。従いまして、消費収支差額は、七億二千五百万円の支出超過となりますが、帰属収入から消費支出を差引いた帰属収支差額は、十億九千万円となり帰属収入の2.3%となります。

この十億九千万円というのは、19年度補正予算比で五億三千五百万円の増となりますが、18年度決算比では一億五千七百万円の減となり、さらに、研究助成金や受配者指定寄付金等の使途が限定されたもの、約六億八百万円を差引いた、「真の帰属収支差額」は、四億八千二百万円となります。目標とする「帰属収支差額比率5%確保」には程遠く、今後も継続して収支改善に向けた取組みを行って行く必要があります。

#### <資金収支の状況>

収入の部小計は、六百八十一億四千三百万円で19年度補正予算より三十四億六千三百万円の減となっています。支出の部小計は、資産運用支出（旭町・御井地区の施設整備のための第2号基本金引当特定資産への組入分）の三十億円を含め、六百九十五億四千六百万円となり、当年度の収支差は十四億三百万円の支出超過です。従った、次年度繰越金は、前年度分にこの額を加えた七十億六千二百万円となり、補正予算と比較しますと二億八百万円増加しています。

#### <貸借対照表の状況>

まず「資産の部の合計」は、九百九十六億七千三百万円で、18年度決算より七億二千百万円増えています。また「負債の部の合計」が、二百三十二億九千八百万円となり、基本金と消費収支差額を合計した「正味資産」は、七百六十三億七千三百万円となりまして、18年度決算より十億八千九百万円の増となっています。

この正味資産のうち、学校法人久留米大学としての運用可能額は、約三百四十億五千九百万円となり、これは対前年度比約二億七千二百万円の減となりますが、本学の財政の健全性は保たれていると考えております。